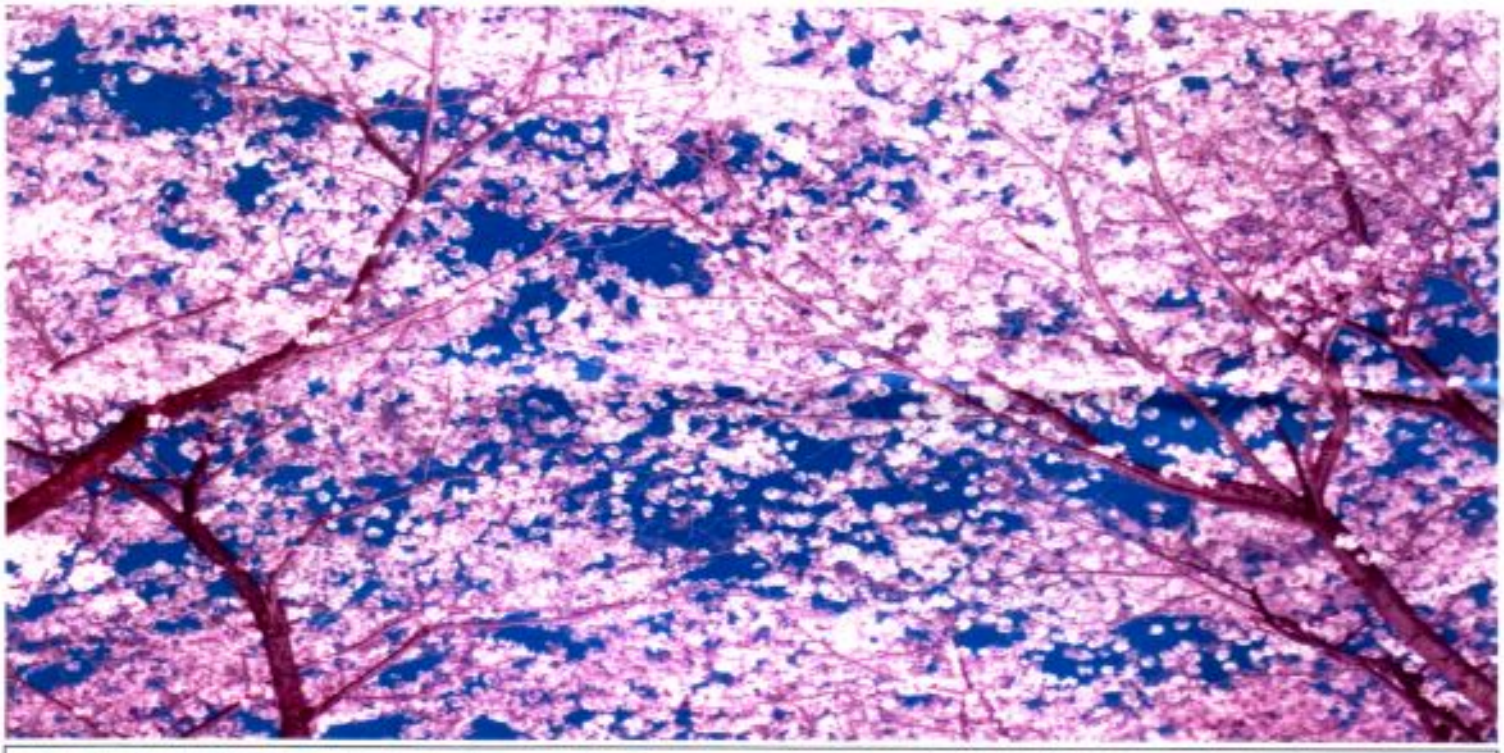
平成十九年 3月号

岐阜県本部だより

JKS
japanese government approved non-profit-organization(npo) japan karate syotorenmei　HP：http://www.fsinet.or.jp/~jks-gifu/
発行：ＮＰＯ法人日本空手松涛連盟岐阜県本部　岐阜県岐阜市森東９６番地 tel(058)-229-6066
発行責任者：岐阜県本部広報部　岐阜県瑞穂市別府 1214 tel/fax(058)326-5512



休眠打破

何気なく過ごせば、昨日と変わりない今日。なのに、ちょっと何かを　ちょっとどこかを研ぎ澄ましてみると、昨日と違う何か・・・春の訪れ。花の咲くのを待ちこがれ、その様を愛で、散るのを惜しみ、詩歌に詠み、文学にまで昇華する文化は日本特有のものであります。

春に咲くサクラの花芽は、前年の夏に形成されます。しかし、それ以上、生成されることなく、その後、「休眠」という状態になります。休眠した花芽は、一定期間、低温にさらされることで、眠りからさめ、開花の準備を始めます。これを「休眠打破」といいます。休眠打破は、この秋から冬にかけて一定期間、低温さらされることが重要なポイントです。

そして、春をむかえ、気温が上昇するにともなって、花芽は成長「生成」します。気温が高くなるスピードにあわせて、花芽の生成も加速します。生成のピークをむかえると「開花」することになります。

このように、サクラの花芽の「休眠」、「休眠打破」、「生成」、「開花」は、秋から冬にかけての気温と春先の気温に、大きく関係していることがわかります。サクラは、四季のある美しい日本の国で進化した植物なのです。

さくらの語源については、いくつかの説があります。その一つに、古事記に登場する「木花開耶姫」（このはなさくやひめ）のさくやが転化したものだという説があります。

また、さくらの「さ」は穀霊（穀物の霊）を表す古語で、「くら」は神霊が鎮座する場所を意味し、「さ＋くら」で、穀霊の集まる依代（よりしろ）を表すという説があります。

昔から、桜の開花が農作業の目安の一つになっていたことを思えば、いにしえの人々が桜に実りの神が宿ると考えたとしても不思議ではありません。

休眠打破、あなたの中に眠るもの、今こそ奮い立たせてみませんか。

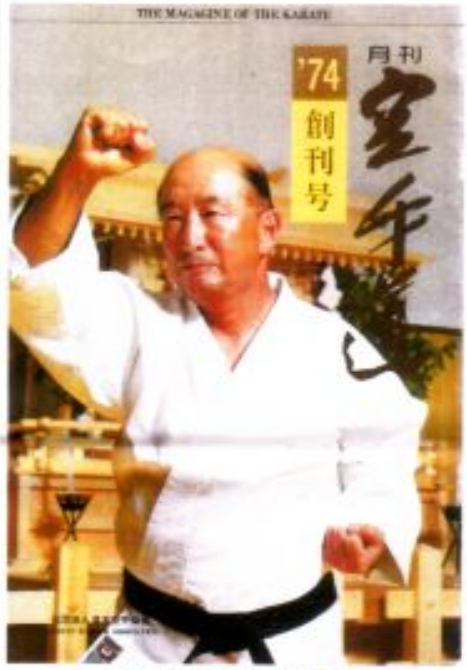
【ご連絡】　松涛連盟岐阜県大会で、型引き分けの場合、幼児は序の型で、小学１年～４年までは平安初段で、小学５年生からは順路初段で勝敗を決めることとなりました。選手は試合内容を確認してください。

４月度　行事予定

１９日～２２日　船越義珍顕彰 2007 世界松涛武道祭　沖縄県立武道館にて
２２日　岐阜県空手道連盟　空手道競技会＜国体予選＞　メモリアルセンター
２９日　ロシア招待選手歓迎レセプションパーティー　グランパレホテル PM6:00～　４月 20 日締切
３０日　第８回　NPO 法人日本空手松涛連盟　岐阜県空手道選手権大会　メモリアルセンター
５月　６日　岐阜県空手道連盟　岐阜県空手道大会　メモリアルセンター　◎多数の審判参加をお願いします。

私のたからもの

大切に大切にしまうあまり、いつしか持っている事すら忘れてしまった少年の頃の「宝物」。やっと手に入れた念願の宝物であったり、何気ない物なのに長い間持っているうちに愛着がわき宝物になったもの。「宝物」と決めるのは自分自身、その基準は大人であれ、子供であれ、自分の中にある。羽島北支部長　中園正則先生からお借りした貴重な資料。今から３０年以上前の物とは思えない程、きれいに保存された中園先生の宝物。この資料にまつわるエピソードを紹介させていただきます。



表紙は当時の会長　小坂善太郎氏

林会長と河島理事長の基本組手

道場訪問記　田中本部長のコメントが掲載

「私のたからもの」　　羽島北支部長　中園正則

１９７４年。当時、私は林広高会長の下、日々稽古に励んでおりました。ある日『中園君、読んでみなさい』と言って林会長から頂いたのが「月刊　空手道」＜創刊号＞でした。表紙を開くと当時の、第１回全国指導者講習会の記事があり、中山正敏首席師範、次のページには林会長と河島理事長の写真が掲載されておりました。また、道場訪問記には岐阜県本部が３ページに渡り紹介されており、田中本部長、林会長、河島理事長、早川師範のコメントが掲載されております。現在の岐阜県本部の結束は、当時からの地道な積み重ねの上にあるのだと確信いたしました。改めて目を通すと、あの頃の情熱に満ち溢れた日々を思い起こし、今の私を奮起させてくれます。林会長から頂いたこの創刊号が、私の宝物です。

岐阜県本部　3月度

昇級・昇段審査会

去る3月１８日、午前9時より岐阜地区昇級審査前半の部、続いて１０時３０分より後半の部が行われ、おそよ７５０名が受験した。寒さと緊張から唇を震わせながらも、元気いっぱいの気合が岐阜アリーナに響き渡った。

また、午後からは昇段審査会が行われた。受験者数は過去最多の１５７名。田中本部長の「黒帯は与えられる物ではなく、勝ち取るものだ」とのお話を受け、受験者の気持ちはより一層の昂りを見せた。

続いて行われたのが少年・成人弐段審査。２４名の受験者が、更なる自己の技術と、精神の向上を目標に『弐段』に挑んだ。長い年月で得た経験、様々な大会での実績、有段者としてのプライドを胸に、一心不乱に審査に挑む姿に、会場からは拍手が湧き起こった。審査開始前、受験者の組手の相手をする基立ち指導員に対しては、田中本部長より「基立ちの心構え」が説かれた。基立ち指導員は、受験者の良い部分をより一層引き出す為、華麗な身のこなしで胸をかしていた。

午後４時、全ての予定を終了し、受験者達は満面の笑みの中に一つの達成感を覚えた。結果はさて置き、今日までの努力は様々な形で受験者の心と身体に向上をもたらした。夢を持つ事で、人は進化する。夢を強く持ち続ける事、これ以外に夢をかなえる近道は無い。

◎　次号では世界松涛武道祭、岐阜県大会を特集したいと思います。皆様の身近な話題を広報部までお寄せ下さい。